

A dynamic splash of clear blue water against a white background, with ripples and droplets visible. The splash originates from the bottom left and moves towards the center.

**SEKISUI**

# 積水化学グループ中間報告書

---

# 2011

(2010年4月1日~2010年9月30日)

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。積水化学グループの2010年度上半期の連結業績につきまして、ご報告申し上げます。

2010年度上半期の連結業績は、売上高は前年同期比10.0%増の4,461億円、営業利益は前年同期比75.9%増の202億円となり、増収増益となりました。住宅ストック、管路更生、水インフラ海外、機能材、車輻、IT、メディカルの高成長7分野の売上が大幅に増加したことや、アジアを中心とした新興国における成長需要の獲得に注力した結果、住宅カンパニーと高機能プラスチックカンパニーは大幅に利益を伸ばし、環境・ライフラインカンパニーも赤字幅を縮小しました。

とくに、液晶パネル向けの材料を中心に需要が増加したIT分野や新築住宅事業、リフォームを中心とする住環境事業の売上の増加が大きく寄与しました。この結果、本年4月に発表した2010年度の連結業績予想を上方修正いたしました。

円高の進行など景気の先行き不安は依然として残っていますが、下半期につきましては、引き続き、高成長分野と位置づける「フロンティア7」に経営資源を集中し成長需要を獲得するとともに、経営効率化策にも注力し、2010年度の連結業績目標(売上高9,270億円、営業利益500億円)の達成に向け、全力をあげて取り組んでまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月

代表取締役会長

大久保尚武

代表取締役社長

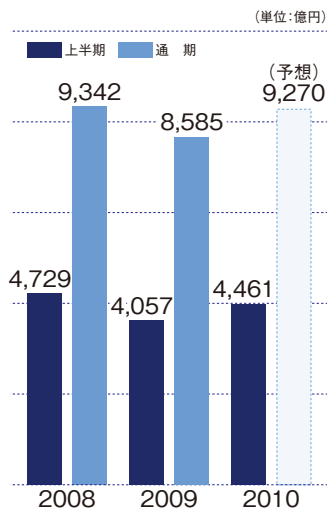
根岸修史



# 積水化学グループ上半期決算のご報告

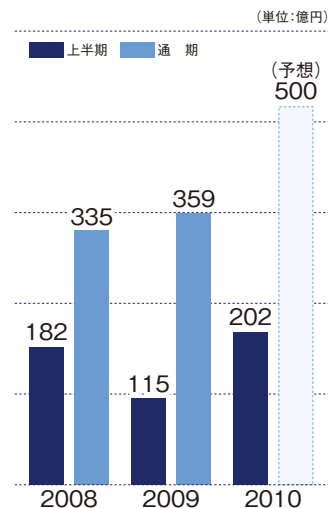
売上高  
4,461億円  
+10.0%

高成長分野と位置づける「フロンティア7」の売上高が大幅に増加したことや、アジアを中心とした新興国の売上高が増加したことなどにより、10.0%増加しました。



営業利益  
202億円  
+75.9%

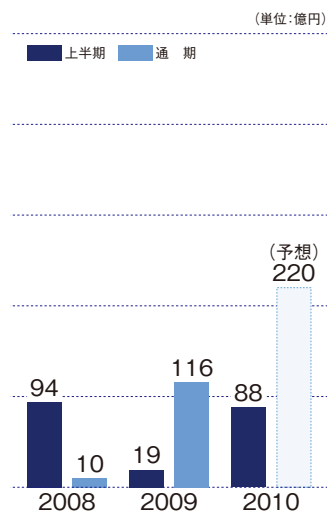
「フロンティア7」事業を中心に売上数量が増加したことや、各カンパニーの経営効率化策が順調に進捗したことにより、75.9%の増益となり、通期予想を420億円から500億円に増額しました。



— 2 —

純利益  
88億円  
+364.6%

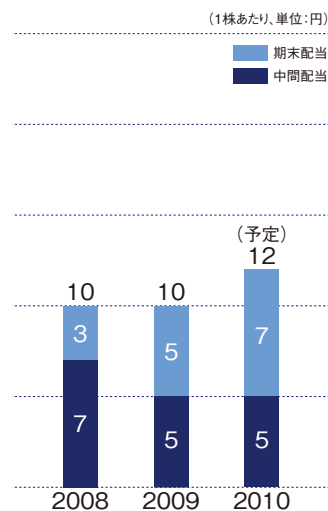
営業利益が増加したことや、経営効率化策が順調に進捗したことにより、大幅な増益となり、通期予想を175億円から220億円に増額しました。



中間配当金

5円

2010年度の業績が期初の予想を上回る見通しとなったため、期末配当金を本年4月に発表しました5円から2円増配し、7円とさせていただきます。



— 3 —

## 連結財務データ

### 連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

	2010年度上半期末	2009年度末
流動資産	342,599	343,524
固定資産	421,317	443,736
資産合計	763,916	787,261

### 連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	2010年度上半期	2009年度上半期
売上高	446,190	405,777
営業利益	20,245	11,511
経常利益	20,530	9,937
純利益	8,857	1,906

(単位:百万円)

	2010年度上半期末	2009年度末
流動負債	286,630	285,275
固定負債	137,589	150,279
負債合計	424,220	435,554
純資産合計	339,696	351,706
負債純資産合計	763,916	787,261

### 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	2010年度上半期	2009年度上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,828	29,226
投資活動によるキャッシュ・フロー	-14,652	-37,085
財務活動によるキャッシュ・フロー	-7,568	8,724

— 4 —

## カンパニー別売上高・営業利益

### 売上高

	2010年度 上半期	2009年度 上半期	前年同期比 増減
	億円	億円	億円
住宅カンパニー	2,081	1,963	+117
環境・ライフラインカンパニー	892	896	-3
高機能プラスチックカンパニー	1,398	1,113	+285
その他	215	191	+24
消去又は全社	-126	-107	-19
合計	4,461	4,057	+404

### 営業利益

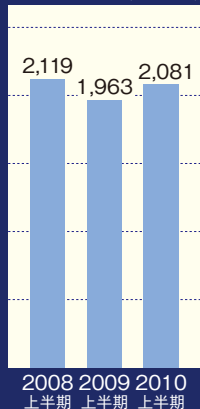
	2010年度 上半期	2009年度 上半期	前年同期比 増減
	億円	億円	億円
	118	88	+30
	-24	-37	+12
	113	68	+45
	-2	0	-2
	-1	-4	+2
	202	115	+87

— 5 —

# 住宅カンパニー

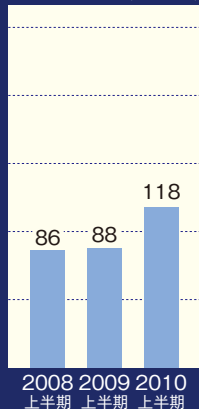
売上高の推移

(単位:億円)



営業利益の推移

(単位:億円)



- 住宅ローン減税や太陽光発電に対する補助金制度などの各種施策を追い風に受注が拡大し、売上高は前年同期比6.0%増の2,081億円となりました。また、経営効率化策が奏効し収益体質が改善され、営業利益は前年同期比34.5%増の118億円となりました。
- 新築住宅事業は、コストパフォーマンス実感商品や40周年記念商品の受注が好調に推移し、新築住宅受注は前年同期比9%増加しました。
- 住環境事業は、太陽光発電システムなどの重点商材を中心にリフォーム受注が好調に推移し、売上高は前年同期比15%増加しました。
- 「おひさまハイムプラスキャンペーン」による拡販が貢献し、太陽光発電システムの搭載率は80%(前年同期77%)に達しました。

## 鉄骨系ユニット住宅 「進・ドマーニ」を発売



通年型空気調節システム「快適エアリー」に容量2.2kWタイプを追加したほか、6.94kWの大容量太陽光発電システムを搭載可能にしました。さらに「ダブルα空間」を採用し、プランニングの自由度も大幅に向上しました。

## 「ツーユーホーム空気工房プラス」 シリーズを発売

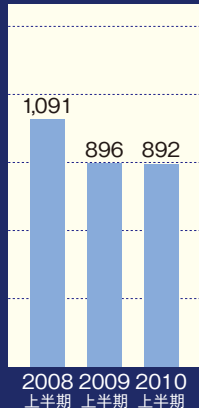


冷暖房を使わずに過ごせる時間を拡大する「除湿・加温ユニット」を装備するとともに、太陽光発電時の売電メリットも享受できるようになりました。さらに、花粉除去率99.9%以上、カビ菌除去率96%以上の空気清浄フィルターも採用しました。

# 環境・ライフライン カンパニー

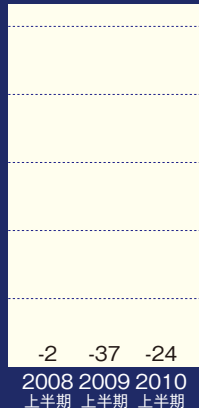
売上高の推移

(単位:億円)



営業利益の推移

(単位:億円)



- 国内事業は苦戦したものの、海外事業の売上が増加したため、売上高は前年同期並みの892億円となりました。一方、営業利益は24億円の損失となりましたが、経営効率化策の推進により、前年同期に比べ、12億円損失が縮小しました。
- 国内では、公共関連製品が苦戦しましたが、戸建住宅の需要が回復し、主力の塩化ビニル管、雨といの販売数量が増加しました。
- アジアを中心に国内外の設備投資が増加したことなどにより、プラント管材事業の売上が大幅に増加しました。
- 海外では、主力の航空機分野の需要回復を受け、シート事業の売上が大幅に増加しました。管路更生事業も米国・欧州を中心に売上を伸ばしました。

— 8 —

## 航空機内装向け シートが好調



航空機の座席や内装に使用されている成形用プラスチックシート事業は、米国のカイドックス社を中心に展開しています。米国の航空機向け需要は急回復しており、世界シェアトップの航空機座席シートの売上は好調に推移しました。

## 「SPR-PE(ポリエチレン)工法」を 本格展開



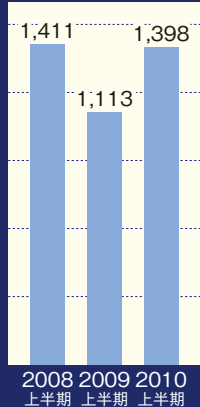
管路更生事業は、老朽化した下水管を掘削せずに更生する「SPR工法」に、大口径の下水管に対応する「SPR-PE工法」を開発、本格的に販売を開始しました。スチール部材で補強したポリエチレン樹脂を融着した更生管のため、耐震性や耐食性、耐摩耗性に優れています。同工法を従来の塩ビ品に加えることで、発注者の幅広いニーズに対応できるようになりました。

— 9 —

# 高機能プラスチック カンパニー

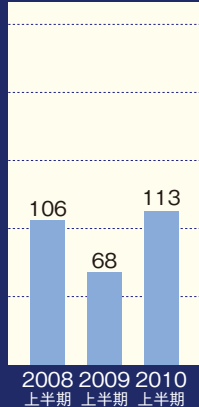
売上高の推移

(単位: 億円)



営業利益の推移

(単位: 億円)



- 車輦・IT分野の売上数量が大幅に増加し、売上高は前年同期比25.6%増の1,398億円、営業利益は前年同期比66.2%増の113億円となりました。
- 車輦分野は、新興国の需要増や国内需要の回復により、合わせガラス用中間膜、発泡ポリオレフィン、内外装樹脂成型品などが好調に推移しました。
- IT分野は、液晶パネル関連製品が、中国・韓国向けを中心に売上を大きく伸ばしました。また、薄型テレビや携帯電話の出荷増により、液晶ケミカルや光学材料などの売上が大幅に増加しました。
- メディカル分野は、前年同期に売上を伸ばしたインフルエンザ検査薬の売上が減少しましたが、これを除く検査薬事業の売上高は国内外とも、堅調に推移しました。

## 自動車用合わせガラス中間膜の 高機能化を加速



50%以上の世界シェアを持つ自動車用合わせガラス中間膜について、遮音膜、遮熱膜を中心とした高機能中間膜の採用比率を拡大するために、昨年の中国・蘇州に続き、滋賀水口工場に生産ラインを増設しました。

## 血液凝固分析装置の OEM供給契約を締結



積水メディカルは、国内シェアNo.1の血液凝固検査試薬分野の海外事業を拡大するため、医療機器大手の日本光電工業株式会社へ血液凝固分析装置とその専用試薬をOEM(相手先ブランドによる生産)供給する契約を締結しました。



# CSR (企業の社会的責任) の取り組み

積水化学グループでは、CSRを果たしていくための必要な要件を、「環境」「CS品質」「人材」の3つの「際立ち」と「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「情報開示と対話」の3つの「誠実さ」に定め、事業を通じて社会に貢献することを目指した取り組みを進めています。

## ●CSR中期計画(2009年～2013年度)

CSR経営を進化させ、さらに企業価値を創出するために、2009年度に「CSR中期計画」を策定しました。中期計画では、事業活動のさまざまな面で社会にとって価値を創出する社会への「貢献」と、社会から信頼を得る企業、人づくりとしての社会からの「信頼」を柱に据えており、グループ全体で取り組みを推進しています。

## ●環境中期計画「環境トップランナープラン・SHINKA!」の推進

「環境トップランナープラン・SHINKA!」では、「事業・製品を通じて地球環境への負荷低減」というこれまでの考え方を徹底し、生産を中心とする事業活動にともなう環境負荷低減と環境貢献製品の拡大を通して、積極的に社会に貢献していきます。また、海外事業の拡大にとまない、広くグローバルに取り組んでいく考えです。

2010年上半年期においては、地球環境の負荷低減に貢献する環境貢献製品の売上高比率は、太陽光発電システム搭載住宅や「SPR工法」の売上増加により27%に拡大しました。生産における温室効果ガス排出量は、省エネ対策の浸透などにより、1990年度比21%削減しました。

—12—

## 「KODOMO バイオダイバシティ 国際湿地交流 in琵琶湖」を開催



積水化学は、本年8月、国内とアジアの子どもたち80名を招き、湿地の生物多様性を守ることをテーマとした学習・交流活動「KODOMOバイオダイバシティ」を琵琶湖で開催しました。

「KODOMOバイオダイバシティ」は、環境経営を推進する積水化学とラムサールセンター、滋賀県がつくる実行委員会が主催するプロジェクトです。今回は、生物多様性の宝庫である琵琶湖の豊かな自然と触れ合いながら、これまで取り組んできた湿地保全活動の現状を学ぶ機会を提供しました。

## 「自然に学ぶもの づくりフォーラム in名古屋」を開催



積水化学は、自然に学んだ基礎サイエンスの知見をものづくりに活用する大学・研究機関の活動を支援する「自然に学ぶものづくり研究助成プログラム」を毎年実施しています。今年は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の会場となる名古屋市で盛大に開催しました。

積水化学グループでは、今後も事業活動における地球への影響を最小限にとどめ、製品・事業を通じて環境に貢献する企業として、地球温暖化の防止や生物多様性保全を重要な環境問題としてとらえ、さまざまな取り組みを展開していきます。

—13—



## 株式の状況 (2010年9月30日現在)

### 発行株式数および株主数

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,187,540,000株	539,507,285株	25,204名

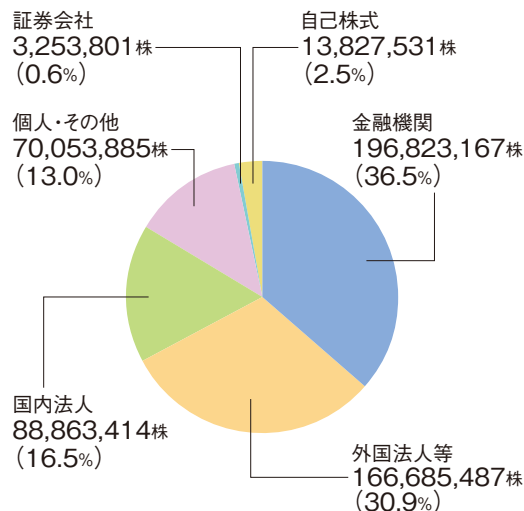
### 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
旭化成株式会社	31,039	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,796	5.2
第一生命保険株式会社	26,181	4.9
積水ハウス株式会社	25,592	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,648	3.7
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	16,931	3.2
東京海上日動火災保険株式会社	15,927	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	14,087	2.6
積水化学グループ従業員持株会	10,151	1.9
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505223	9,498	1.8

(注)1.当社は自己株式13,827千株を保有しております。

2.持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

### 株式の所有者別分布状況



—14—

## 株主メモ

### 株式に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号

電話(通話料無料) **0120-094-777**

- 三菱UFJ信託銀行では、特別口座に記載された株式をお持ちの株主様のお手続きのみを取り扱うこととなりますので、ご注意ください。
- その他の株主様の各種お手続きは、口座を開設されているお取引先の証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 住所変更、単元未満株式の買取、配当金の受取方法のご指定等のお申し出について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

### 配当金計算書の送付について

配当金のお支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告される際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引先の証券会社等にご確認をお願いします。なお、配当金領収書にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

—15—

## 会社概要 (2010年9月30日現在)

積水化学工業株式会社 (Sekisui Chemical Co.,Ltd.)

創 立: 1947年(昭和22年)3月3日  
資 本 金: 1,000億237万5,657円  
本 社: 〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号  
グループ従業員数: 20,033名  
ホ ー ム ペ ー ジ: <http://www.sekisui.co.jp/>

### 取締役および監査役

代表取締役会長	大久保尚武	社外取締役	田村 滋美
代表取締役社長	根岸 修史	社外取締役	辻 亨
取締役	松永 隆善	常勤監査役	満生 英二
取締役	滝谷 善行	常勤監査役	篠 秀一
取締役	吉田 健	社外監査役	國廣 正
取締役	高下 貞二	社外監査役	森本 民雄
取締役	久保 肇	社外監査役	長田 洋

投資家情報ウェブサイト

<http://www.sekisui.co.jp/ir/>

2010年度第2四半期の連結財務諸表や決算説明会などの情報を提供しています。

開示情報のメール発信サービス

<http://www.sekisui.co.jp/ir/newsmail/>

積水化学の開示情報に関するお知らせを電子メールにて、直接、ご指定のメールアドレスにお送りするサービスです。

-16-

## 積水化学グループ2011カレンダーのご案内

株主の皆様を対象に、積水化学グループ2011カレンダーを差しあげます。ご希望の方は、以下の要領にしたがってお申し込みください。

### ●お申し込み方法

同封いたしましたアンケートはがきに、必要事項をご記入のうえご返信ください。

### ●締め切り

2010年12月15日(水)到着分をもって締め切りとさせていただきます。

※お届けは12月下旬の予定です。



2011  
Calendar



ほくと  
ホマの  
12カ月の絵はがき

# 積水化学工業株式会社

株主様のお問い合わせはこちら

法務部総務グループ

電話:06-6365-4119

商品に関するお問い合わせはお客様相談室へ

(東京)電話:03-5521-0505

(大阪)電話:06-6365-4133



この報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。

- ①製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレクト刷版「CTP(Computer to Plate)」を用いています。
- ②印刷工程では、VOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく、生分解性や脱墨性に優れた大豆インキを使用しています。